

令和元年度業務実績評価書において課題とされている事項への 令和2年度対応及び令和3年度計画への反映について

「令和元年度公立大学法人熊本県立大学業務実績評価書」において課題とされている事項について、令和2年度業務実績及び令和3年度計画への反映は以下のとおり。

	令和元年度業務実績評価書において課題とされている事項	令和2年度業務運営の改善状況	令和3年度計画への反映状況
1	<p>(1) 「大学の教育研究等の質の向上」</p> <p>①教育</p> <p>(イ) 大学院入試について、社会人などの受入れを推進するため、社会人特別選抜(国際協力枠)を設置したことは特筆すべきである。また、志願者の確保に向け、ターゲットを絞った広報や訪問活動などの取り組みが行われていると認められる。</p> <p>しかし、令和元年度(2019年度)の収容定員充足率では、前年度に引き続き、文学研究科博士前期課程、アドミニストレーション研究科博士前期課程・博士後期課程が、認証評価機関の評価基準を下回った。また、令和2年(2020年)4月入学者も、全課程で定員を割り込んでいる。</p> <p>学内外の学生、社会人や留学生も含めたさらなる志願者の確保に向け、大学院修了後の進路や論文発表・学会発表等の研究活動に係る情報発信など、地道な取り組みの継続が求められる。</p> <p>併せて、学内における、今後の大学院教育や定数のあり方等に関する議論の深化を期待する意味も込めて、本項目は「課題」としたい。</p> <p>※ なお、本項目については、評価委員会審議の中で「社会人などの受入れ推進のた</p>	<p>【計画番号(3)】</p> <p>(3) 大学院委員会において、学内外の学生及び社会人のさらなる志願者の確保に向け、入試制度の見直しのほか、新しいメディアを利用した授業形態での大学教育(遠隔授業等)の検討を行った。また、キャリアセンターによる大学院生のキャリアサポート内容の周知等も含むPRを行った。</p> <p>各研究科においては、以下のとおり具体的な取り組みを進めた。</p> <p><文学研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語英米文学専攻の研究発表をオンライン公開で行い(R2.11.24, R2.12.22)、これまでで最多の外部の聴衆を得た。また、博士論文の最終試験(公開審査)(R2.8.4)や修士論文の中間発表(R2.12.1)、要旨発表(R3.2.26)についてもオンライン公開で行った。 ・学部生対象のガイダンスにおいて大学院での研究活動の内容を紹介する取り組みについて、Web等で可能かどうか併せて検討し、来年度のガイダンスに組み込むこととした。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、大学院進学説明会をホームページでの対応に切り替えたところ、研究生1名の応募を得た。 ・広報用ポスターの配布先について再考するとともに、遠隔授業のアピールについても検討し、配布ポスターにその旨を記載することとした。 <p><環境共生学研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科修了者や在籍者による経験談等を内容に含めた大学院説明会を専攻毎に計画し実施した(環境資源学専攻: R2.6.18、居住環境学専攻: R3.1.25、食健康環境学専攻: R2.7.16、7.27、9.25)。 ・海外協力枠・社会人枠等を含め、学外からの受入れを推進 	<p>【計画番号(3)】</p> <p>大学院への内部進学者や社会人などの受入れを拡大するため、様々な取り組みを行う。</p>

<p>めの画期的な取組みがなされていることや、検証指標を収容定員充足率とすることへの疑義などから、『課題』の評価を外してもよいのではないかと意見が出された。</p>	<p>するため、海外協力枠については、遠隔による入試方法を導入した。今後、社会人枠を対象として遠隔授業の導入の可否について検討を進めるため、令和2年度前期における遠隔授業の実態について調査を行い、FDを実施した(R2.9.15)。本FDを踏まえて研究科委員会で検討し、「令和3年度以降、社会人に対しては遠隔授業を積極的に取り入れることで、社会人の入学促進を図る。なお、遠隔授業については内部進学者を対面、社会人を遠隔のハイブリッド型式とするなど、状況に応じて柔軟に対応して良いものとする。」こととした。</p> <p><アドミニストレーション研究科></p> <p>熊本県医療政策課や看護協会に広報活動を行ったほか、国際教育交流センターと協力し、アドミニストレーション研究科に興味を持つJICA関係者に研究科の教育内容等の説明を行った。また、在学生や社会人に対し、修士論文初期報告会(R2.6.6)及び修士論文中間報告会(R2.10.31)への参加を呼びかけ、研究科を知ってもらう機会として提供した。また、『看護管理』2021年2月号に「学際的な看護管理学の教育を目指して 熊本県立大学アドミニストレーション研究科の現状と将来構想」と寄稿し、看護管理のPRを行った。</p> <p><国際教育交流センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報に関し、本学ホームページに「高度グローバル人材育成(大学院生対象)」を掲載した(R2.6、8)。また、JICA九州に対し、海外協力隊員及び隊員OBの方への情報提供やJICA Partner(JICA、国際機関、国際協力NGO/NPO等の国際協力関連情報を一元的に発信するサイト)等への情報掲載を依頼した(R2.6~8)。 ・JICA主催、熊本県立大学共催により「JICA海外協力隊ネクストキャリアセミナー・熊本～熊本で踏み出す次の一歩～」を開催した(R2.7)。九州出身又は在住で、①一時退避帰国中及び派遣前待機中のJICA海外協力隊員、②JICA海外協力隊経験者(R1年9月以降に帰国した者)に対し、3研究科の紹介や入試制度等に係る説明を行った(参加者数：会場13名・オンライン15名 合計25名)。 ・大学院プログラムに興味を示した方に対し、3研究科、教務入試課、JICA派遣特任教授等と協力し、カウンセリング、大学施設紹介等を個別に実施した(R2.7~)。 ・概ね2年間の国際協力・貢献活動の経験がある方のための入試制度である「社会人特別選抜(国際協力枠)」の令和3年度入学者選抜試験において、2名が合格した(R3.2)。 	
--	--	--

		<p>・内部進学率向上を目指し、総合管理学部のFDにおいて、JICA、県（企画課）及び国際教育交流センターが合同で「高度グローバル人材育成プログラム」のBパターン（国際協力・貢献活動を組み込んだ大学院教育）を中心に、プログラムや支援策等に係る理解を深め、意見交換等を実施した（R3.3）。</p> <p>【参考：令和2年度収容定員充足率】</p> <p>文学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：45% ・博士後期課程：50% <p>環境共生学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：68% ・博士後期課程：178% <p>アドミニストレーション研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程：43% ・博士後期課程：33% 	
--	--	--	--